



# 世界遺産を楽しもう

コロナと共存する生活

## 目的

コロナをきっかけに旅先を自然豊かな人と密集しない場所を考えるようになったのではないかと考えます。それに伴い、近年世界遺産と任命された『神宿る島』宗像・沖ノ島を楽しむことができる自然豊かな大島に、1日楽しめることができる都市開発を提案する。

## はじめに

今年になって、中国でコロナという伝染病が発生し、そのコロナに戦い、向き合っ  
て生活する時代になってきました。そこで、緊急事態宣言が宣告され、家にいること  
が多くなったでしょう。外に遊びに行くことができず、リフレッシュすることが難し  
く、精神的にもきつい思いをした人が多くいると思います。また、緊急事態宣言が解  
除された今、感染者数がなくなることなく、全国でまだ出続けています。このことか  
ら、人が集まるところは避けながらも遊ぶ方法はないかと考えることが多くなったの  
ではないかと思います。

とは言って、福岡のように都心は人口が多く遊ぶところとなると、商業施設や娯楽  
施設など、室内で常に人が密集しているように感じます。

そこで海辺や島、田舎など、自然豊かな場所にキャンプ場や公園などをいろんな場  
所に設けるなどし、人を拡散させていけば、もっと福岡は過ごしやすく、これからの  
時代にあった生活ができるのではないかと考えます。

そこで、今回はその一つの例として世界遺産である『神宿る島』宗像・沖ノ島と関  
連遺産群をターゲットに気軽に観光でき、楽しめるような施設を提案します。



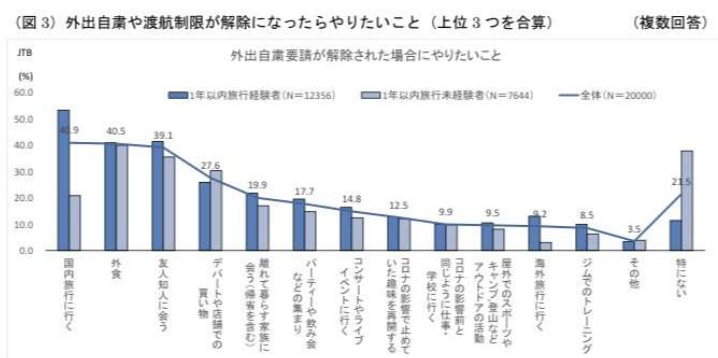
## 新型コロナウイルスによる、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査

株式会社 JTB および株式会社 JTB 総合研究所が、「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査(2020)」の調査結果を共同でまとめてます。

この調査は、両社の2つの調査に基づき、2月の感染拡大から緊急事態宣言の発令、解除の見通しが立つまでの間の人々の意識や行動の変化、旅行意向を追いながら、今後の足元の旅行回復の動きと、未来の旅行・観光のあり方への影響について旅行者の側から探っております。

【調査概要】		※各アンケート実施時の社会状況や感染者数の推移については、調査結果の後に掲載			
		< JTB調査 >		< JTB総合研究所 定点調査 >	
		2月調査	3月調査	4月調査	5月調査
調査実施期間	2020年4月27～29日	2月21～27日	3月14～20日	4月10～14日	5月12～16日
調査対象者	事前調査 全国に居住する15～79歳の男女 *人口構成比に合わせて割付 本調査 事前調査のうち「過去1年間に1回以上国内旅行または海外旅行に行った」と回答した人を抽出	全国に居住する20歳以上の男女 *性年代での均等割付 事前調査のうち、「2020年中に国内・海外旅行のいずれか、または両方を予定・検討している」と回答した人の中から抽出 *性年代での均等割付			
サンプル数	事前調査 20,000 本調査 2,060	6,557	6,471	6,488	6,464
調査方法	インターネットアンケート調査	1,030	1,018	1,002	1,020
		インターネットアンケート調査			

外出自粛要請や渡航制限が解除され、自由に外出や旅行ができるようになったら、何をまずやりたいか、上位3つを選んでもらった結果は「国内旅行(40.9%)」、「屋外でのスポーツやキャンプ、登山などのアウトドアの活動(9.5%)」でした。

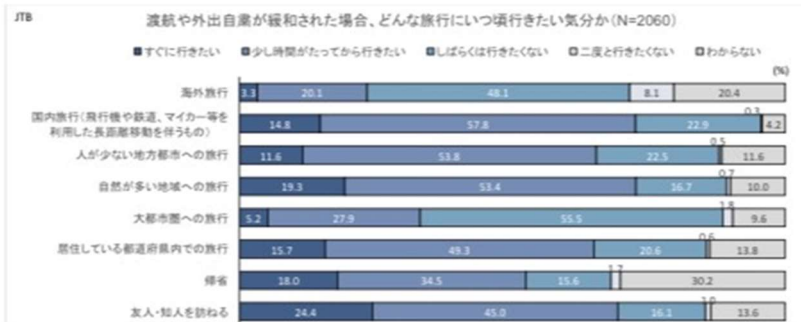


次に、外出自粛や渡航制限の解除後、「すぐ行きたい」と考える旅行や外出とは何か、旅行の種別ごとに心境を聞きました。全体的には「すぐ行きたい」はどの旅行も割合は高くなく、少し時間をおいてからと考えている人が多いようです。「すぐ行き

たい」の割合が高いのは、上位から「友人・知人訪問(24.4%)」、「自然が多い地域への旅行(19.3%)」、「帰省(18.0%)」、「居住している都道府県内の旅行(15.7%)」でした。

今後1年間の旅行支出は、「支出を増やしたい」が9.6%と昨年から14.5ポイントも大幅に減少し、「支出を減らしたい」は34.3%と16.2ポイント増加しました(表1)。

(図6) 渡航や外出自粛が緩和された場合、どんな旅行にいつ頃行きたい気分か(単数回答)



(表1) 今後1年くらいの旅行支出について (単一回答)

	単位:% n=2060	
	2020年4月	2019年3月
支出を増やしたい	9.6 (▲14.5)	24.1
支出は同程度	56.1 (▲1.8)	57.9
単価減らし回数増やす	8.3 (▲5.7)	14.0
単価増やし回数減らす	9.6 (+0.4)	9.2
単価も回数も同程度	38.2 (+3.5)	34.7
支出を減らしたい	34.3 (+16.2)	18.1

\* ( )は前年差

この調査の結果、国民の多くの人々は定期的に旅行やキャンプなど外出したいということがわかりました。また、コロナの影響もあり、今後の旅行や外出の仕方は「自然が多い地域への旅行」、「人がいない地方都市への旅行」を考えている傾向があることが分かり、以前よりも旅行支出は少なくしたい人が多いようです。



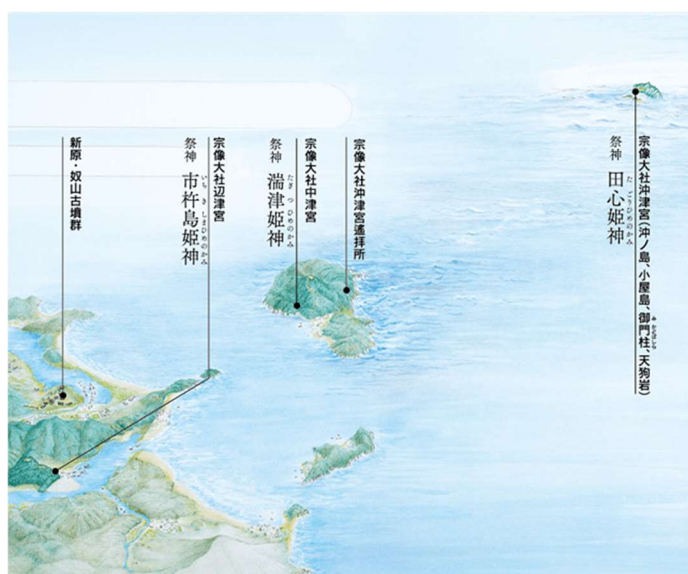
よって、今後増やしていくべき施設とは、**キャンプ**や**屋外のスポーツ施設**など、自然豊かな場所で人と密集せず、広々とした場所が必要となっていく。



## 『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群について

2017年、ユネスコ世界遺産委員会において、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界文化遺産へ登録となりました。

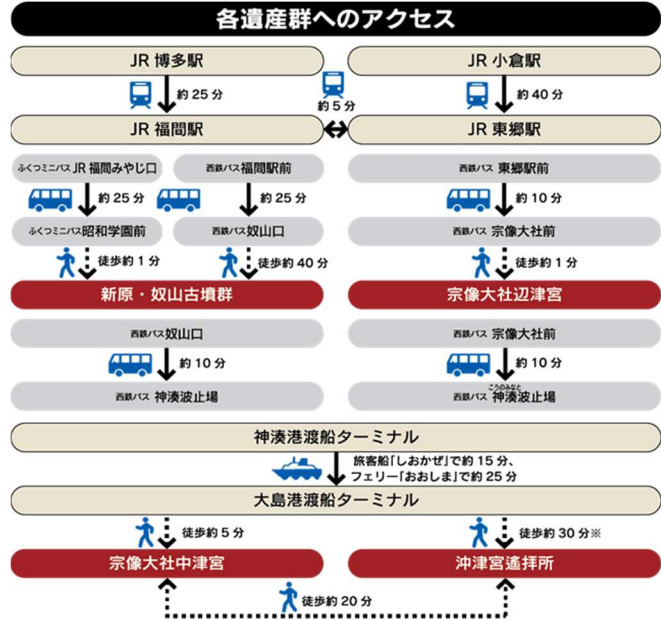
登録が決まったのは、宗像市の宗像大社沖津宮（沖ノ島と小屋島、御門柱、天狗岩）、宗像大社沖津宮遙拝所、宗像大社中津宮、宗像大社辺津宮、福津市の新原・奴山古墳群の8資産。古代祭祀遺跡が残る沖ノ島と現在まで続く宗像大社信仰の一体的な価値、東アジアの交流を示す出土品の考古学的価値が高く評価されました。



また、田心姫神を祀る沖津宮（沖ノ島）、湍津姫神を祀る中津宮と沖津宮遙拝所（大島）、市杵島姫神を祀る辺津宮（九州本土）は、ほぼ一直線上に並んでおり、海を隔てた先には朝鮮半島や中国大陸があります。また、辺津宮の西、かつての入海に面した台地には沖ノ島祭祀を行った人々が眠る新原・奴山古墳群が位置します。

古来より、御神体である沖ノ島とその周辺海域は神域とされ、立ち入りが制限されてきました。そのため、宗像では沖ノ島を遥拝する（遙か遠くから拝む）という伝統が生まれました。大島の沖津宮遙拝所は沖ノ島を拝む拝殿の役割を持ち、現在も大島における重要な信仰の場となっており、秋には「みあれ祭」も開催されます。

## 各遺産群へのアクセス



大島島内の交通には西鉄バス「グランシマール」が便利。大島ターミナル～砲台跡往復 1日7便運行で片道300円（1日フリー乗車券700円）。その他、レンタサイクル、レンタカー、タクシー（1台）もあるとのこと。

## 大島に世界遺産を楽しめるような施設を提案

ここで提案したいのは、まずキャンプ場。

キャンプを楽しむ人が増えている一方、大都市である福岡はキャンプ場や大きな公園などがとても少ない。また、1日中楽しむとなるとこういう朝から夜まで楽しむ必要があり、自然豊かなこの大島で自然を十分に楽しむのではないかと思います。



次に、屋外のスポーツ施設や公園。

やはり、人間は自然豊かな場所で何がしたいかと考えると、ゲームやテレビ鑑賞ではなく、大きく体を動かしたいのではないかと考えます。それゆえに、お年寄りから小さな子供まで遊べるスポーツ施設や公園があるといいのではないかと思います。

最後におしゃれなカフェ。

自然に溶け込み、素敵なおしゃれなテラスのあるカフェがあるとこれを目的に足を運んでくれる女性も増えていくと思います。

これらの施設を作り、世界遺産である『神宿る島』宗像・沖ノ島を観光地として自然豊かな大島で1日楽しむことができると思います。

コロナで旅行したくても心配でできなかつたり、旅行しても不安になったりしますが、こういう自然豊かで人と密集しないような場所をたくさん作り、人を拡散させていけば、今後、もっと福岡は過ごしやすく、これからの時代にあった生活ができるのではないかと考えます。